

経営比較分析表／団体全体（令和3年度決算）

島根県 斐川水道水道企業団

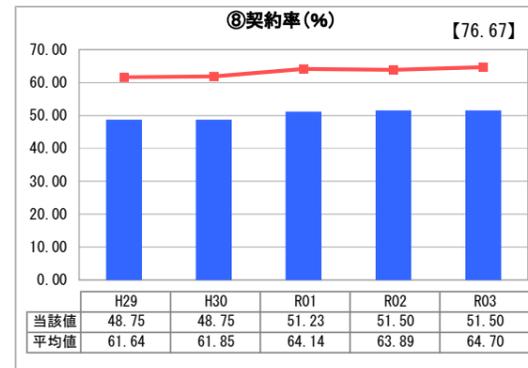
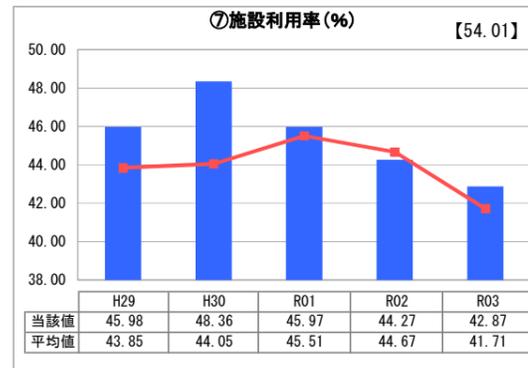
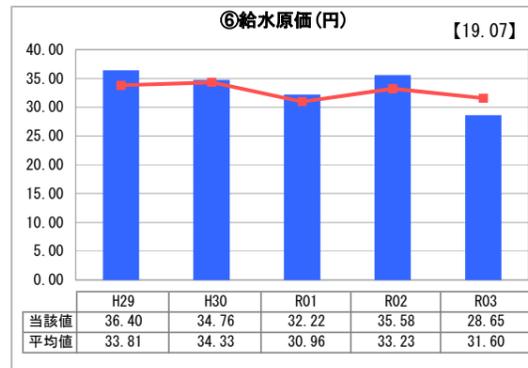
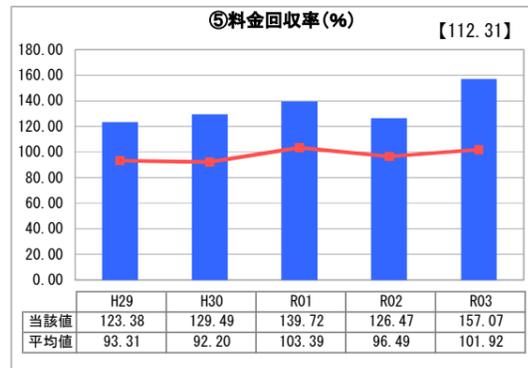
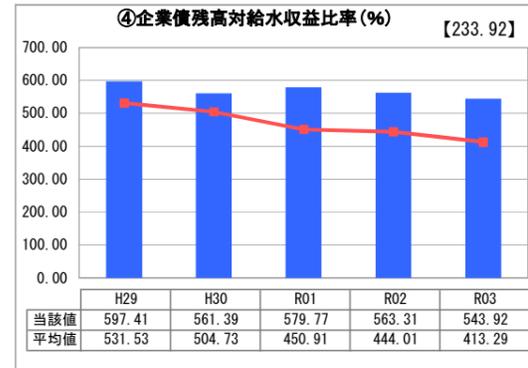
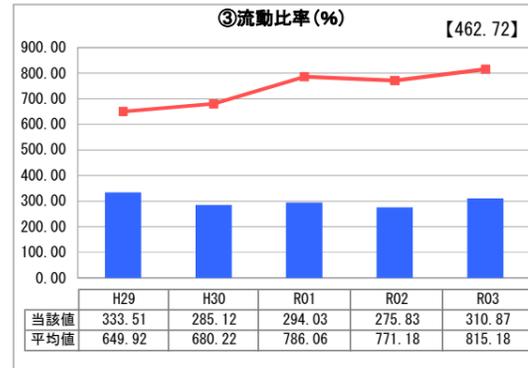
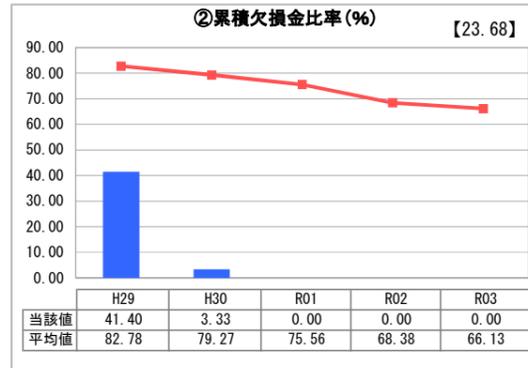
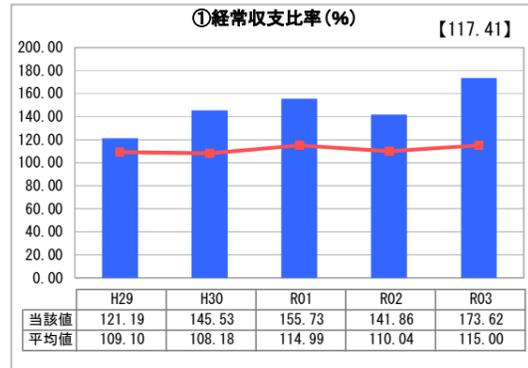
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	11,500	小規模	1	4,930
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	30.5	2	5,922	その他	

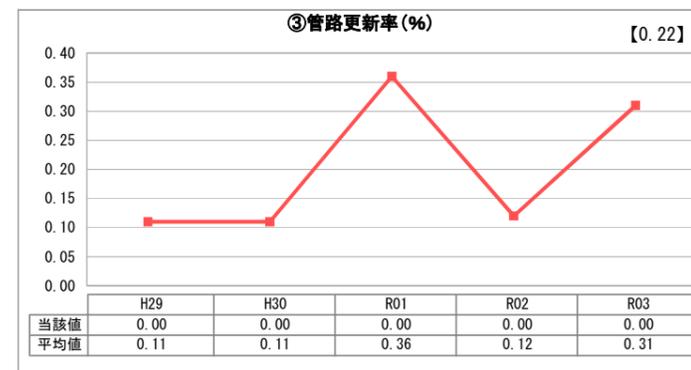
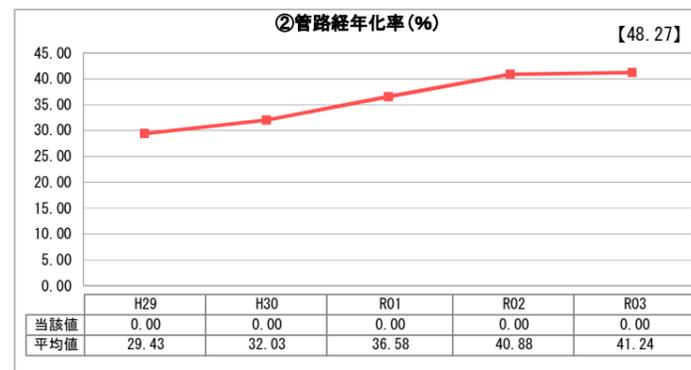
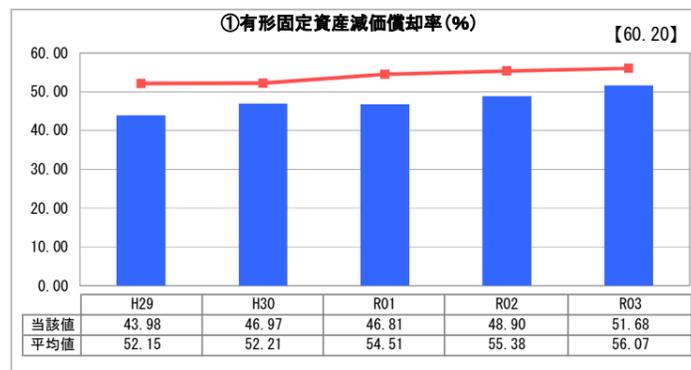
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
費用が減少したことにより、指標が改善した。

② 累積欠損比率
令和元年度に欠損金が解消され、令和3年度においても欠損金は発生していない。

③ 流動比率
未払金が減ったことで、指標が改善した。

④ 企業債残高対給水収益比率
減少傾向にあるが、類似団体及び全国平均値を上回っている。この比率を減少させるよう努めていく。

⑤ 料金回収率
給水原価が下がったことにより、回収率が上昇した。

⑥ 給水原価
費用の減少により、給水原価が下がった。

⑦ 施設利用率
類似団体を上回ることはできたが、全国平均値を下回っている。効率的な利用に努めていく。

⑧ 契約率
新規供給先がないため、大きな変動はない。類似団体及び全国平均値を下回っている状態である。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
若干ではあるが、償却進行により数値が上昇している。法定耐用年数が近い資産は少ない。

② 管路経年化率
法定耐用年数を経過した管路はない。

③ ここ5年は更新の必要が無く、工事を行っていない。

全体総括

基本使用水量制により、安定した料金収入を得ることができており、健全な経営状態である。今後も基本使用水量制の継続や計画的な更新により、収支の安定に努めていく。